

植物と人々の博物館メールマガジン

第 103 号 2023 年 9 月 1 日発行



武蔵野公園に早朝散歩に行きます。朝顔が涼やかに咲いているのが慰めです。ジャスミンやニチニチソウも元気です。蝉はミンミンゼミ、アブラゼミからツクツクホーシに代わりつつあります。ヒグラシはまだ鳴いていません。今朝は、クマゼミの声が聞こえた気がしました、暑いので、北上しているようです。子どもの頃、クマゼミ、タマムシ、ギンヤンマを取れば、たいそう自慢ができました。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、ご一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

国際雑穀年は日本で見捨てられてきた雑穀ほか在来作物を再評価する千載一遇の最後の好機です。厳しい環境変動の未来を生きる孫子たちに希望を示すために、編集子にはこの先の時間はありませんので、この企画に関しては多くの皆様のご助力を切にお願いしています。友の会会員になって、ご一緒に博物館づくり活動をしてくださるとうれしいです。

NHK 朝の連続ドラマらんまんの主人公は編集子と酷似していて、いたく共感すると同時に、すえちゃん家族に対する我儘を三省するしかありません。海外学術調査で収集された植物のさく葉標本や書籍も、それぞれ 1 万点ほど寄贈委託され、お預かり所蔵しています。日本ではこうしたコレクションを大切にする植物文化があまりに貧弱です。ごく率直、あからさまに言いますが、世間から評価されない大変な作業は研究者でさえも、おおかたは誰も引き受けません。国際雑穀年を契機に雑穀の民族植物学への関心が拡がり、継承してくださる方が現れず、多くの方々のご援助が今なければ、個人の人生も残り少ないですから、本当に申し訳ないですが、彼岸にまで持っていけないので、自ら重い責任を取ってすべて廃棄することにします。東日本大震災の被害に対応して、保存していた約 1 万系統の生きた種子はイギリスの王立キュー植物園（ミレニアム・シード・バンク）に急遽移管したことは、日本の一個人としてはとても重い残念な決断でしたが、在来作物品種の種子を世界の社会的共通財にできたことはせめてもの救いです。

1. 植物と人々の博物館

○予定 開館・作業予定日：9 月 11 日；NPO さいはら、ドキュメンタリー映画の撮影、9 月 22 日午前；和ハーブ協会、10 月 2 日；スウェーデンから調査来訪、または随時未定。

資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整して開館します。

担当 木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp

○報告

1) 再興について話し合いを行っています。西原のびりゅう館に蔵書の一部を置かせていただきます。

2) 民族植物学ノオト第 17 号は 2024 年 3 月末に発行する予定です。雑穀街道普及会始末書は書き残します。皆様も自由にお書きくださり、ご寄稿ください。

これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。相当数の方々が読んでくださっています。

<http://www.ppmusee.org/goods.html>

3) 電子書籍：

編集子は自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は序章から第 3 章インド亜大陸の食文化まで改訂し、旅行記録の一部、第 9 章パキスタン、アフガニスタンを公開しました。現在は、第 12 章中央アジア諸国ほかヨーロッパへと書き進み、一方で第 4 章南インドの雑穀文化複合をまとめています。今後は雑穀の起源と伝播の仮説の検証を行うようにまとめる方向に向かいます。同時に、50 年の研究成果のまとめとして自選集 V “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

[westturkistan.pdf \(milletimplic.net\)](http://www.milletimplic.net/westturkistan.pdf)

<http://www.milletimplic.net/indiansubcont/westturkistan.pdf>

4) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp)で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されます。すべての記事は無料で公開しています。

5) 森とむらの図書室への寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」、「つぶつぶ」、「国際農林業協力」（国際雑穀年特集）ほかをいただきました。ありがとうございました。季刊「つぶつぶ」への連載、雑穀物語 3～椎葉秀行夫妻は初稿済み、次に雑穀物語 4（終）～貝沢薫夫妻を準備中です。

6) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。多くの方々からのご協力をいただき、ありがとうございます。植物と人々の博物館の維持のために会員になってくださるか、ご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしく願います。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。雑穀街道普及会も含めて、費目指定でご寄付をいただくとありがたいです。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。説明用冊子の印刷（5刷で総計3000部）と雑穀栽培講習会の農具や肥料の経費に使用させていただいています。今後、計画が進行するようなら、クラウド・ファンディングや助成・補助も考えたいと思います。2023年度末で会計報告をするようにします。

2. 自然文化誌研究会

○報告

8月4日（金）～10日（木）、こすげ冒険学校は無事終了しました。子ども14名、スタッフ20名以上が参加しました。

8月14日～24日、タイ・ベトナム環境学習キャンプ、ウタイタニ国立公園、パンダキャンプ 他は無事、帰国しました。チンタナさんからお土産、土製茶器を頂いたので、タイコレクションとして展示します。

8月23日（水）、拡大運営委員会、キャンプ場、植物と人々の博物館について。

○予定 詳細はホームページをご覧ください。

9月30日（土）～10月1日（日）、INCHまつり（ライブ）、30名
小菅村のいつものキャンプ場

12月下旬（23-25 or 26-28）、まふゆのキャンプ、15名
小菅村のいつものキャンプ場

3. 雑穀街道普及会：

この活動は、中川さんや編集子のような、出アフリカ古層A型の子孫、縄文人の末裔を自認するものは自然と共存して生業を継承し、過剰便利に抵抗して雑穀栽培を伝承してきました。縄文土器を博物館に展示することも大事ですが、先人が生きたまま毎年種子を播いて、郷土食を調理して継承してきた雑穀の種子を切らさないことにも関心を向けていただきたいと思います。かさねて、日本列島における縄文農耕の歴史、その伝統的知識体系の蓄積を絶やさないように、もう時が迫っているので、基層文化を消滅させないように切にご助力をお願いします。雑穀街道地域は縄文時代中期の勝坂土器文化圏に重なります。

簡単な栽培方法は次のサイトにも公開してあります。家庭菜園や雑穀に関するご質問にはメールくだされば、いつでもお答えします。

<http://www.millettimplic.net/weedlife/farmsklec8p.pdf>

雑穀街道普及会は下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.millettimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、50年間、定点参与観察、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。<http://www.millettimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、さらに「街道美味」は雑穀製品、佐野川茶やクラフト・ビールを紹介していますので、下記のホームページをご覧ください。会費はありません。寄附は任意で、個人の意思を尊重し、あえて納入規定は設けていません。趣旨の賛同していただき、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカ、インドなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。

4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

セミナーの動画や予習・復習資料 pdfなどは下記のサイトにあります。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。人々との間に信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。自給農耕ゼミは引き続き開催しています。雑穀栽培会（西原）も連携しています。

内容についての連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全NP04団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。

今この時、人新世の変曲点で、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンス生き物の文明を日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは下記サイトにあります。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

○ 予定

1) 自給農耕ゼミ（佐野川）：

国際雑穀年を契機として、在来雑穀の栽培法を学び、栽培者を増やして、絶滅寸前の栽培現況を改善しましょう。そのために、遺存的栽培地を結ぶ雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請し、山村において生物文化多様性を現地保全します。プランタでも栽培できるように栽培の手引きや雑穀種子を差し上げます。栽培から、加工・調理まで実習し、また、収穫物で美味しい料理やクラフト発泡酒を楽しみましょう。

第 17 回自給農耕ゼミ（佐野川）

日時：2023 年 9 月 17 日（日）9：00～15：00

場所：神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩および藤野

実習：アワなどの収穫、はさかけ乾燥。醸造所の見学予定。

話題提供者：宮本透、木俣美樹男（雑穀街道普及会）、山口解（ジャズ・ブルワリー）

協催： NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道普及会、ワノサト・プロジェクト、NPO さいはら（雑穀栽培会）ほか。

集合場所：上野原駅バス停 8：30 または現地近くの石楯尾神社前（周辺地図）。藤野駅の北側にある神社です。同名の神社が南にもあるので、間違えないでください。

<https://map.yahoo.co.jp/?lat=35.65645&lon=139.11944&zoom=19&maptype=basic>

駐車場はあります。更衣が必要なら、近くの公民館を予約してあります。

暑いと予測されますので、お弁当、飲み物、帽子、タオルなど持参ください。

協催： NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道普及会、ワノサト・プロジェクト、NPO さいはら（雑穀栽培会）ほか。

協力： ジャズ・ブルワリー

申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（雑穀普及会事務担当幹事）

参加費は不要ですが、活動への任意の寄付は歓迎します。

交通案内： JR 中央線／上野原駅南口からバスがある。

電車 <行き>上野原駅 甲府方面から 8：00 着。東京方面から 8：26 着
手洗いは南口下にもあります。

<帰り>上野原駅 甲府方面へ 15：59 発。東京方面へ 16：01 発

バス <行き>上野原駅 8：35 発、石楯尾神社前 8：55 着。

<帰り>石楯尾神社前 15：31 発、上野原駅 15：53 着。

更衣など施設 公民館

バス利用の方は、木俣が上野原駅南口エレベーター下でお待ちします。

雑穀街道普及会は関東山地南部地域農山村の小規模家族農耕によって伝承保全されてきた雑穀他の生物文化多様性を継承するための普及啓発活動を行い、あわせて FAO 世界農業遺産に登録申請の準備をすることを目的としている。2023 年は国際雑穀年です。これまでに行った、このゼミに関連した動画、話題資料などは、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開されています。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

2023年の自給農耕ゼミおよびNPOさいはら雑穀栽培会開催予定は添付します。

参考動画 詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

[環境学習市民連合大学 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net)

(33) [雑穀街道をFAO世界農業遺産に - YouTube](#)

[【報告】FFPJ連続講座第21回：日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか - ニュース レポート](#)

(81) [国際雑穀記念オンラインイベント「つぶつぶ雑穀パワーフェス」第2回 - YouTube](#)

2) 自給農耕ゼミ (小金井) 第7回

日時：10月下旬予定

場所：カエルハウス、武蔵小金井。

話題：世界の穀物料理の起源と伝播

3) 雑穀街道を世界農業遺産に登録申請する説明会

上野原市長のご厚意で会場を貸していただき、開催します。山梨県知事、上野原市長、小菅村長、丹波山村長、神奈川県知事、相模原市長、同緑区長ほかにご協力をお願いしました。賛同団体や新聞社にもご案内しました。

目的：行政担当者や地域住民に、雑穀街道の歴史的誇りと未来への重要さを学術的、実践的に説明し、FAO世界農業遺産登録申請に関する理解を深めていただき、ご賛同を勧める。

日時：9月22日(金)午後2～4時

場所：上野原市役所隣接、もみじホール(文化ホール)2階会議室2

参加定員：会場50名、ウェビナーZOOM300名

資料代：任意の寄付

主な内容：

1. 雑穀街道と植物と人々の博物館

～雑穀など由来作物の重要な価値、里山での生業の継承を学び楽しむ

2. 雑穀街道筋の住民による家族農耕・農業の実践報告

3. 里山エコビレッジ創造や縄文リビングラボの設立構想

4. 話し合い。

共催：雑穀街道普及会、ワノサト・エコビレッジ、

協賛：NPO自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道地域の賛同市民団体、他
関心ある方々。

参加案内先：神奈川県、相模原市、山梨県、上野原市、小菅村、丹波山村の行政担当者、
賛同団体および住民ほか、関心のある方々

参加申し込み事務担当：雑穀街道普及会 木俣美樹男

メールでお願いします。申込者には二次案内をお送りします。

kibi20kijin@yahoo.co.jp

◎ 報告

第 16 回自給農耕ゼミ（佐野川） 6 名参加

日時：2023 年 8 月 27 日（日）9：00～15：00

場所：神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩、実習：キビの収穫、脱穀。

6) 西原祭り

日時：10 月 10 日予定

○2023 年開催年間計画

1) 植物と人々の博物館 自給農耕ゼミ（佐野川）

山間地畑作農耕について、雑穀栽培の基礎技能と佐野川茶の管理作業を主に学ぶ。また、雑穀の民族植物学、雑穀とその料理の起源と伝播、インドの日本の雑穀料理と発泡酒醸造を学ぶ。有機肥料のみを使用する。

講師：宮本透、井上典昭、木俣美樹男（雑穀街道普及会）、富澤太郎、中川智（雑穀栽培会）ほか。

*西原での活動も協働実習として案内する。

主催：NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、ワノサト・プロジェクトほか。

参加費不要、任意の寄付は歓迎。

申込先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男。

詳細は <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

⑦ 10 月未定日（日）：第 18 回 雑穀見本園収穫、防雀網片付け。

⑧ 11 月 19 日（日）：第 19 回 実習：コムギ、オオムギの播種

⑨ 12 月 10 日（日）：第 20 回 実習：麦踏み。懇談会：

⑩ 1 月日 ：第 21 回 実習：麦踏、味噌の仕込み

⑪ 2 月日 ：第 22 回 実習：麦踏、醤油の仕込み

⑫ 3 月日 ：第 23 回 懇談会

2) 上野原市西原でも NPO さいはらの雑穀栽培会があります。あわせてご案内します。ご参加ください。

お山の雑穀応援団 参加者募集中

「消えかかる地域の雑穀（キビやアワ）を、みんなで育て、食べ、学び、次世代につなげたい。」より多くの方と共に受け継いでいく形を作るため、2018 年から栽培に取り組んできました。コロナ渦中、活動をお休みしていましたが、形を少し変えて、再スタートします。「雑穀を食べるのが好き」、「雑穀を作りたい」そんな皆様とともに雑穀を作り、地域のあちらこちらでキビやアワの穂であふれる畑が広がるのを夢見ています。ぜひご参加ください。

【年会費】3,000 円（NPO さいはらの会員）

【今年の年間スケジュール】月に一度の共同作業で、雑穀を栽培します

10 月 1 日（日）脱穀

11 月 5 日（日）収穫祭、雑穀を食べる

- * 来られる回だけの参加、途中からの参加、通して参加できなくても大丈夫です。
- * 平日でないと参加できないという声もありますので、臨時で平日作業日も設ける予定です。ご興味ある方はお問い合わせください。
- * 収穫した雑穀は、11月のイベントで参加者で食べます。たくさん採れた場合はびりゅう館の厨房で使います。

【申込み・問い合わせ】NPO 法人さいはら 担当：富澤太郎
 メール：taro.tomisawa@gmail.com 電話：0554-68-2100（びりゅう館）

3) 雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ 復刻企画 詳細は別添付、東京学芸大学公認事業

目的：国際雑穀年を記念し、雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録する活動を普及促進するために、雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ（素美暮発泡酒）を復刻します。雑穀街道味の新商品になることを期待します。国際雑穀年・東京学芸大学創基 150 周年記念として醸造します。ぜひ、ご試飲ください。第 1 回目は 9 月 2 日に仕込み、9 月末にはできる予定です。長らくお待たせしてごめんなさい。出来次第お送りします。引き続き、第 2 回目分（50 口）も申し込みを受付しており、現在、11 口です。ぜひ、ご賞味ください。

企画団体：東京学芸大学雑穀発泡酒復刻有志ほか、植物と人々の博物館／日本村塾自給農耕ゼミ（佐野川）、雑穀街道普及会

申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（雑穀普及会事務担当幹事）

●参考資料・動画

ローカリゼーションデー日本・分科会 6（71' 25"）<https://youtu.be/Jwz64EdrT0I>
 OK シード・プロジェクト学習会、雑穀街道を FAO 世界農業遺産に
<https://www.youtube.com/watch?v=jucNJsWpivI>
 家族農業プラットフォーム・ジャパン [FFPJ 連続講座第 21 回；日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか](#)
 つぶつぶパワーフェス 「雑穀は歴史的、風土的たからもの」[\(57\) 国際雑穀記念オンラインイベント「つぶつぶ雑穀パワーフェス」第 2 回 - YouTube](#)
 関連動画アーカイブがあります。[環境学習市民連合大学 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net)

~~~~~

### 植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ヴェトナム）、大澤由実（神奈川）ほか

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)



栽培担当幹事：宮本透

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミュージーズ研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：

代表 亀井雄次（山梨小菅村）

自然文化誌研究会：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

環境学習市民連合大学 <http://www.milletimplic.net/university/civicues.html>

企画室事務担当：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~

写真



アサガオ。キビの穂刈



佐野川の雑穀在来品種の畑、アワやハトムギは登熟中、オカボ未出穂（高温、早魃だったためか）、シコクビエ開花中。

おわりに {ひとりごと／編集子私言}

人間の体には生き物としての多くの欲望がある。食欲、性欲、所有欲（権力、金銭など）、自己顕示欲（名誉、驕り）などの物欲が生きることの源動力になっていることを全否定はできない。ただし、過剰に昂進させると、自分も他者も傷つけ、犯罪にも至る。従って、人間の生長は、心が知能（構造）と情意（機能）を発達させて、物欲を自由意思により制御することで、これが教養を育むという文化的進化であろう。

自己家畜化 self domestication は意思ある人間にのみ当てはまる用語だと考える。栽培化（作物）や飼養化（家畜）は、彼らには意思がないか、情意が弱いので、生き物への自然選択に加えて、意思をもった人間による人為選択が加わって起きる共生進化過程である。しかしながら当然のことであるが、自然はもちろん、生き物は人間の意思のすべてには従わない。人新世初期の昨今、過剰な便利を求める人間、主に都市民は、他の生き物を作物や家畜にするのとは異なる文化的進化過程で、過剰な便利を求めて、自らを人為選択し、自己家畜化しているのだと考える。私は自由に暮らしたい、AIなどを操るホモ・デウスには隷従しない。



収穫したキビ穂の乾燥。早朝のスーパーブルームーン。